

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名( 三重県立神戸高等学校 )



1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 不断の進化を続ける「高品位な進学伝統校」
		○ 生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 新たなことに積極的に挑戦する「気概」と、困難に立ち向かう「勇気」を持つ生徒 ○ 自主自立と協働の精神にあふれた社会で活躍できる生徒
	ありたい 教職員像	「生徒の育成」を願い、授業の充実や学校運営に進取の「気概」を持ち、「知恵」を絞ると共に「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、充実した教育内容と楽しく安全安心な高校生活環境 〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣向上と高いレベルでの人づくり 〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	〈保護者〉 学習・進路・生活面でのきめ細かい指導 〈地域社会〉 地域の伝統校としての地位向上と将来を担うリーダーの育成 〈中学校〉 地域の進学校としての存在意義 〈地元大学〉 高大連携、目的意識醸成と基礎学力育成	〈保護者〉 学校と家庭間の連携と支援、信頼関係の構築 〈地域社会〉 学校運営への支援・協力、キャリア教育充実のための連携と協力 〈中学校〉 生徒の学習習慣の定着と生活習慣の確立 〈地元大学〉 高大連携の充実・促進
(3) 前年度の学校関係者評価等	○ 中学校を卒業して私学や高専、あるいは通信制など多様な進学先へ流れる生徒が増えている。つまり、学力の二極化は中学校でもあり、進学への意識の高い生徒と、普段から様々なサポートが必要な生徒がいる。先行き不安定な時代の中での「学力」とは何かを整理した上で、中学校や保護者に向けて発信してもらいたい。 ○ 企業においてもテレワークなど働き方が変わってきている。在宅勤務はよほど自分を律していないと成り立たない。オンライン授業の難しさを想像するし、二極化も進むのではないかと危惧する。進学校として学習時間の少なさが心配。最低でも目標(学習時間 15 時間/週 50%以上)をクリアできるように工夫してもらいたい。 ○ 教育相談における相談内容や相談件数などではできる限り「見える化」して関係職員で共有して早期に解決していくのが良い。1 年次から「キャリアシート」を用いて生徒が自ら目標や進捗を「見える化」しながら進めるようになると進路意識の醸成につながるのではないかと。 ○ 心の問題については、家庭環境が大きく影響することや時間がかかることも多い。これまで以上に学校と家庭が連携して取り組む必要がある。	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス(新株)に対する感染予防を引き続き徹底していく。</li> <li>・生徒は一定の学力を有して入学してくるが、目的意識が弱い生徒もあり、期待する学力の向上や進路実現につながっていない。学力の二極化も進みつつある。</li> <li>・新カリキュラムがスタートし、50分×7限授業で「主体的・対話的で深い学び」を実践する。</li> <li>・ICT を効果的に活用した授業実践に取り組む。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス(新株)の特徴に即した感染予防を徹底していく必要がある。</li> <li>・先行き不安定な時代の中での「学力」とは何かを明確化し、その上で生徒が主体的に取り組めるよう、現在の取組を再構築する必要がある。(CS の在り方、探究活動の在り方、学力の二極化への対応など)</li> <li>・授業での効果的なICT活用を進めるため、実践を積み重ね横展開する必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に取り組み、一定の成果を上げているが、個々の教員や学年単位での取組に偏る傾向がある。</li> <li>・授業の充実により学力の向上につなげるため50分×7限授業に取り組むなど、生徒のためを思い、多岐にわたる多様な取組を展開している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真面目に多くの業務に取り組むことが、結果として過剰労働につながっている場合もある。</li> <li>・教育改革推進委員会を活性化し、5年後・10年後の本校のあり方の議論を進める中で、現在の取組を整理する必要がある。</li> <li>・心の問題を抱える生徒が増加する中で、職員間の共通理解と早期解決が必要である。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○将来、地元を支え、地元で活躍できる生徒を育成します。</li> <li>○生徒の主体的な学習態度を養うとともに、3年間を通じて継続的計画的な学習ができる持続可能な方針を示します。</li> <li>○生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、早期からの進路意識向上に努め、国公立に100名程度合格できる進学状況を目指します。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業内容の改善やICTを効果的に活用した授業力向上に組織的に取り組む風土を醸成し、生徒の無限の可能性を引き出します。</li> <li>○大きな視点からの議論(教育改革委員会)の中で、中長期的なゴールの明確化、職員のベクトル合わせと取組の優先順位などを整理し、全ての職員がやる気とやりがいをもって働ける職場づくりを目指します。</li> <li>○学校の魅力化をすすめるとともに学校からの情報発信を強化します。また、職員の仕事満足度の向上や働き方改革に努めます。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
安全安心な学校生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心安全教育の充実</li> <li>新型コロナウイルス(新株)への対応、交通事故防止、命を大切にする教育、いじめ防止、教育相談体制の充実など</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常におけるマスクの正しい着用・黙食・換気の徹底</li> <li>・交通安全講話、単車通学許可者へのスクーリング</li> <li>・いじめアンケートや集会等での道徳的講話(命の講話含む)の実施</li> <li>・生徒会によるピンクシャツ運動の啓発:年10日以上</li> </ul>		◎

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談に関わる情報共有の強化、事例検討会の実施</li> </ul> <b>【成果指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内でのコロナ感染拡大:5件以内(同一週に5人以上の校内感染でカウント)</li> <li>・自転車バイクの事故件数:10件以下</li> <li>・本校生徒の過失による事故件数:0件</li> <li>・いじめ重大事態 0件</li> <li>・心の問題の早期発見、解決</li> </ul>		
将来を見据えた 学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領や1人1台端末に対応した授業の充実</li> <li>○家庭学習習慣の定着</li> <li>○生徒の主体性・積極性を引き出すリーダーシップ教育</li> <li>○探究的活動(理数科課題研究 普通科「鈴鹿学」)の充実</li> </ul> <b>【活動指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践レポートの共有</li> <li>・家庭学習に係る実態調査の実施、分析、共有</li> <li>・地元小中学生に対する学習指導や実験教室の実施、充実</li> <li>・大学や研究施設との連携、訪問授業や企業訪問の実施</li> <li>・鈴鹿市の街づくり計画への本校生の参画</li> </ul> <b>【成果指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価(主体的活動): 60%以上</li> <li>・授業満足度・理解度 50%(Top Box)</li> <li>・学習時間 15 時間/週 50%以上</li> <li>・学びの基礎診断(スタディサポートGTZ)B1↑=50%以上</li> <li>・科学オリンピック、みえ科学探究フォーラムへの積極的参加</li> <li>・鈴鹿市の街づくり計画への本校生の意見反映</li> <li>・図書館来館者数 5,000 人以上/年</li> </ul>		※
進路指導・ キャリア教育 の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の早期の進路意識向上と希望進路の実現</li> <li>○大学入学共通テストの教科「情報」導入(R7 年度)への対応</li> </ul> <b>【活動指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア講演会・説明会や職業体験などへの参加:のべ1,000人</li> <li>・探究活動の成果を生かした進路指導</li> <li>・教科「情報」導入に関する指導主事説明会の実施</li> </ul> <b>【成果指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大総合選抜・学校推薦型選抜合格者:30人</li> <li>・国公立大学合格:現浪計 100 人以上</li> </ul>		◎
部活動の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「文武両道」と部活動を通じた人づくり</li> </ul> <b>【活動指標】</b> 生徒の部活動加入 85% 3年間継続 80%以上 <b>【成果指標】</b> 東海大会以上出場クラブ数 5以上		※
改善課題			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の 指導力向上	<p>○ICTを効果的に活用した授業力の向上</p> <p>○校内外研修会への積極的参加</p> <p>○効果的なオンライン授業のためのICT環境の整備、活用</p> <p>○新学習指導要領に準じた評価, 高大接続, 人権教育, 教育相談等の研修会の実施</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年における授業での Chromebook の活用促進</li> <li>・ICTを効果的に活用した授業研究の実施</li> <li>・「観点別評価」の効果的な活用手法の研究</li> <li>・教育相談に係る講演会、研修会の実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年における授業での Chromebook の活用:80%以上</li> <li>・授業満足度・理解度 50%(Top Box)</li> <li>・職員満足度調査の研修項目肯定的意見:70%以上</li> <li>・生徒の基礎学力向上 GTZ 平均 B1 以上の維持</li> <li>・指導方法に関する肯定的評価 50%以上(TopBox)</li> <li>・教職員のカウンセリングマインドの向上</li> </ul>		※
教育改革対応 及び学校運営 全般	<p>○5年先・10年先を見据えた学校の在り方検討</p> <p>○学校の魅力の発信力強化</p> <p>○コンプライアンスの遵守</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育改革推進委員会 2022」を通年で開催(原則月1回)</li> <li>・小さい単位でのコンプライアンスミーティング等の実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールポリシーの策定&lt;教改委&gt;</li> <li>・受検倍率:前期 3 倍、後期 1.3 倍確保 (昨年度 2.85 /1.18 倍)</li> <li>・教職員による不祥事ゼロ</li> </ul>		※
働きやすい 職場づくり	<p>○風通しが良く何でも言い合える職場づくり</p> <p>○時間外勤務の削減と働きやすく働きがいのある職場づくり</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士が本音を語り合う場の創出</li> <li>・SSS の効果的な活用</li> <li>・職員との対話年間 3 回以上 満足度調査の実施</li> <li>・定時退校日 12 日以上・定時退校者率 90%以上</li> <li>・会議時間 1 時間以内 100%</li> <li>・全部活動休養日週 1 日以上100%</li> </ul>		◎

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人当たりの月平均時間外労働 20 時間以下</li> <li>・年間 360 時間を超える時間外労働者 0 人</li> <li>・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人</li> <li>・1 人当たりの年間休暇取得日数 18 日以上</li> <li>・職員満足度 30%以上(Top Box)</li> </ul>		
改善課題			

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次へ の取組方向</p>	
--------------------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動につ いての改善策</p>	
<p>学校運営につ いての改善策</p>	